

時評新報

政治は無試験にて

免許と與ふべし

佛蘭西のルソーは有名なる十八世紀の思想家にして又文學者なりしが此人の素志思想家文學者として世に立んとは非ず或時佛蘭西に懸賞問題として非文明論なる論文を著するものあり當時名もなき一個の代言人たりしルソーは試に筆を執りて一篇を草したるが固より未熟の事とて其論文が幾多の競争者を経て懸賞に當らん杯とは自から期せざりしなり然るに何ぞ爾ら未熟と思ひし其論文は第一等の出来にてればルソーに落ちたり他人は勿論ルソー自からも其成功に驚き其れより代言を廢棄して學者となり遂に彼の有名なる民約論も世に出でて佛蘭西大革命の導火となりたりと云ふ以上はルソー傳中の一小話に過ぎざれども人の力量は自から知らずして過をすむと有りとの一體として見るべし

夫れ一人にして此の如しとせば一國民も亦然らざるを得ず我邦三十年前世界の動向に動かされて封建の舊夢を破り唯新の間に維新の大業を成就し之れより文明の制に則り富強の實を計り鋭意熱心して他事なかりしが信我實力果して如何の一問題に至りては未だ之を能かむるに由なく當局者も確たる目算は立たざりしなり試に普佛戦争の當時を回想せよ我は局外中立を布告せしと云ふものも當時の實際に日本の國力を以て果して能く中立の主意を貫く可きや否やに至りては甚だ覺束なく先づ以て儀式上の局外中立と許す可き委にして外國人に於ても敢て之を意に介せず亞細亞の極東一小隅國の向背固より齒牙に留るに足らずと見て過せられたるは外人が日本を知らざるのみに非ず主人たる日本人にして自から自國の強弱能く能く知らざりしものなり幸にして普佛の戦争は東洋に波及せず我日本國に些少の動搖なくして無事に收まり爾來も我國には是れを云へる外難は一回も起らずして隨て國の實力如何を試るの機會なく唯維新當初の方針を守り文明富強の一義を目的として十年も二十年も餘念なく進み來りし其有様は小兒が學校に入て課業を學び多年怠りなく得るとも既に多しと雖も未だ嘗て試験を受けざるが爲めに何程の學力あるや小兒も他人も譲らざるが如くなりし

然るに愛に一大試験の時節到來は日清の戦争是れなり試験の前に氣遣ふは人情の常にして殊に初陣の事なれば萬一失敗の掛念も免れざりしに借實際に臨んで其成績此の如く立派にして傍觀者は更らなり受験者自らの胸天は彼の懸賞問題に合格せしルソーが自己の天才に意外の恩を爲せしに異ならず今や我日本國の武備は空前の強國に對して毫も恥る所なきを明にして始めて自から之を知り世界も亦之れを許すに至りしは偶然に備はしたる國力試験の賜と云ふ可きのみ借國家を人體に喩へて武備を足に比せば政治は恰も手ぬぐひに喩へて人の生長するや手足共に同様の比例を有るとせば國家の生長も亦武備政治相伴りて進歩するを得たり然るに今や我邦の武備は試験に遺憾なく成績を顯はしたりと雖も政治は多年學業一考もなされば國民政治上の手腕は今日尙ほ疑はれつゝかり責任内閣尙早し藩閥政治全廢すべからざるの妄想

を免る能はざるの有様なり然れども疑は最早無用なり断然切つて放つ可し既に股引の寸法を得たる上は襦袢の袖に之に準じて聊か間違ある可らず人の手足の釣合眞實無妄なればなり故に文明流の戦争に及第せし國へは無試験にて文明流の立憲政治を免許す可し純然たる英政に則りて責任内閣の實を施すに毫も疑ふ所ある可らざるなり

金鶏勳章

陸軍歩兵一等軍曹 大真 徳太郎
陸軍歩兵一等軍曹 藤本 武雄
陸軍歩兵二等軍曹 今村 徳太郎
陸軍歩兵二等軍曹 今村 徳太郎
陸軍歩兵一等軍曹 山本 勇吉
陸軍歩兵上等兵 永田 嘉市
陸軍歩兵一等軍曹 山本 勇吉
陸軍歩兵上等兵 永田 嘉市

歐米五國の東洋艦隊

北支那日々記す所に據れば目下歐米各國の東洋に派遣せる軍艦の数は概ね左の如しと

米國
巡洋艦、オリムピア(五千八百噸) チャールストン(四千四十噸) コンコード(千七百噸) デトロイト(二千噸) ヨークタウン(千七百噸)
砲艦、マキアス(千五百噸) モノカシー(千三百七十噸) (メートル) (八百九十噸)
以上合計一萬八千五百五十三噸

英國
甲鐵艦、セブンチロオン(戰艦一萬五百噸) ウィリアム、アブラハム(二千七百噸)
巡洋艦、アムステルダム(五千六百噸) エドガー(七千三百噸) エラス(二千六百噸) マキニョリ(二千七百噸) ビック(三千六百噸) レインボウ(同上) スパルタン(同上) アラクラチー(千七百噸) アーチャー(千七百噸) カロリン(千七百噸) ボーイース(千七百噸)
砲艦、ダフン(千四百噸) エスク(三百六十三噸) フアイアブランド(四百五十五噸) リンチット(七百五十六噸) ビーコック(七百五十五噸) ビグモ(同上) ブローヴァ(同上) ラットラー(七百五十五噸) レッドボール(八百五噸) スウィフト(七百五十六噸) トワイード(三百六十三噸)
以上合計五萬八千九百八噸

佛國
巡洋艦、ペーヤー(五千九百八十六噸) トリオンフア(四千七百噸) アルギー(四千二百二十二噸) デュゲートラン(三千六百六十一噸) イスリ(四千四百六十噸) フォルブエ(二千三百二十一噸)
砲艦、アスピク(四百八十噸) コノート(四百七十三噸) アンコンスタン(八百一十一噸) タオン(四百七十三噸) アン(四百七十四噸) プリヴィエ(五百四十五噸) ヴィン(四百六十三噸)
以上合計二萬八千六百六十九噸

獨逸
甲鐵艦、カール(七千六百七十六噸)
巡洋艦、イレー(四千四百噸) プリンセム、ウィルヘルム(同上) アルコナ(二千三百七十三噸) マリー(二千四百噸) コルモラン(千六百四十噸)

砲艦、イレー(四百八十九噸)
以上合計二萬三千七百八噸

○山陽鐵道重役會議 去る四日に開き左の決議をなしたりと云ふ

一 廣島以西開通の延長の爲に要する定款の改正及増徴の件共に一兩日中に認可の指令あるべしとの電報到達したるに因り右新株(五百萬圓)は來年二月現在の持株に對し十株に付三株九分の割合を以て配當する事

一 土地買収の事進行するに因り來年二月中を期し橋樑車輪軸外國注文の入れを急がしむる事

一 山陽線路起點より終點迄三百有餘哩の間に連絡を申込み同時に其線路及支線の設計工事の請負世話を依頼し來りたるもの凡十五六會社あり因て橋樑鐵道の例に倣ひ山陽鐵道會社に於て引請け世話する事

○第三聯隊軍旗授與紀念會 麻布龍土町なる第一師團第三聯隊にては本月十九日同隊營内に於て軍旗授與紀念會を施行する事なりと

○日本橋區の凱旋祝宴 日本橋區兵士會に於ては來る十五日午前八時より區内出身の凱旋兵士一同を同區役所に招待して慰勞金、從軍紀念章、木盃及び感謝狀等を贈り夫より同區箱崎町なる山内侯爵の邸を借り受け祝宴を催す由にて當日は同邸前に榮久橋の上へ凱旋門を造り又種々の餘興等ある由來會者の總數は從軍兵士を初め同會員其他有志者等三千餘名の見込なりと云ふ

○海若の納め能 來る十五日午前七時より淺草元麻橋際海若宅にて舊年納會の能狂言は左の如し能組 加茂親世清藤 福王繁十郎 廣刈 梅若竹世 鈴木誠草紙洗 梅若實 福王繁十郎 百萬 梅若萬三郎 鈴木誠 梅若六郎 氏家重三郎 觀世世藏之丞 田宮照映

狂言 胸突(山本東次郎) 宗八(山本素太郎) 清水(山本東次郎)

○探偵・奇聞・金剛石 梅月庵ましら 意譯

第十回 素人探偵の鑑定

彌吉は尙も問ひ試みて云ふやう
貴下は彼の老婆さんは何國の者だか知れないと仰せられるが俺が佛蘭西表に椰子の實を送出すと、か彼仰せられた、ソレテ其椰子の實を賣代は貰ひませんか、半右衛門はカラ、と笑ひて
イヤ貴公は能く根掘り葉掘り聞きたがる男だ彼の老婆は彼處の森から毎月凡そ一俵ばかりの椰子の實を拾ひ集めるが素より大した金目のものでなし併し毎月來る汽船の船長が彼と懇意の間柄とやに由て下らな輸出物とは思へば年寄の心を悪くするでもなしと無算で彼の役に立たない雑物を彼婆の親類でもあ

らうか先方(眉度に食物を添へて)に足らず探偵を以て來ると云ふふ舞へば宜からうと云れて口よりたり安藤彌吉は如何なる關係か知らしは凡そ此紅丸人ののみなりとのねども此老婆の仔細に事の様子仔細に事の様子入來り半右衛門食物を投込みぬれば彼れは断然とてして手づから術門が大の男にれ機嫌を取る爲てあらんか附付し彌吉の目も彌吉半右衛門は罪も一癖ある可き面似たる眼の隅に似たる非ず堀江作秘密を知らせし者而も此身の主彌吉は心算にモモ斯の事には考へ難し種奇怪にして彼を欠きたるを以て思定めけり

新報(下) 午前五時二十分
新報(上) 午前七時三十分
新聞(下) 午前八時三十分
新聞(上) 午前九時三十分
新聞(下) 午前十一時三十分
新聞(上) 午後二時三十分
新聞(下) 午後四時三十分
新聞(上) 午後六時三十分
新聞(下) 午後八時三十分
新聞(上) 午後十時三十分
新聞(下) 午後十二時三十分
新聞(上) 午後二時三十分
新聞(下) 午後四時三十分
新聞(上) 午後六時三十分
新聞(下) 午後八時三十分
新聞(上) 午後十時三十分
新聞(下) 午後十二時三十分